

生ける水

聖霊による刷新のために

巻頭言 新風

全国コムニオ奉仕会コーディネーター 小熊晴代

生ける水に渴く

夏になり気温は上昇、熱中症警戒アラートが発表されるようになりました。予防策の一つとして、のどの渴きを感じる前に水分補給をすることを勧められていますね。皆様、知恵を尽くして自分の体と心を大切にいたしましょう。

最近、『ヨハネによる福音書』4章に記されているサマリアの女をイメージしたダンスを観る機会に恵まれました。数分の小作品です。白と淡青色の衣装を身にまとい、1メートル四方の土色の薄布で頭を覆った女性が重い足取りで舞台上に登場します。そこにいる誰かと会話を交わしているかのよう、彼女の戸惑い、驚き、探究心、決意、喜びが、全身で表現されていきます。目には見えない風と舞っているようでした。そして、土色の布を置き去りにして、足取りも軽やかに退場します。

あの東日本大震災や今後の発生が警告されている南海トラフ地震に伴う津波、そして年々増加する豪雨、と水の脅威を再認識させられることの多い昨今ですが、どんな生物も生命維持のために水を必要としていることは、周知の事実です。そして、水道

の蛇口をひねると上水が流れ、実店舗や自販機やネット通販で気軽にペットボトルの水が買える環境にいると忘れがちですが、昨年二〇二二年十一月に80億人を超えた世界人口の約八%に当たる6億6千3百万人は安全な水を身近で入手できず（いずれの統計も国連の発表による）、二千年前のサマリアの女と同じように多くの女性と子供が水がめを頭に寄せ、遠い道のりを何往復もして、池や川や湖や整備されていない井戸から安全とは言えない水を汲みます。この兄弟姉妹たちへの霊的物的支援も私たちの大切な務めです。

ヤコブの井戸から出る水は安全で、シカルの住民も家畜も恩恵を受けていたでしょう。ただ、このサマリアの女は早朝ではなく人目を避けられる正午に水を汲みにやってきました。そこで、イエスに出会います。そして、水がめを井戸端に置いたまま、つまり地上の命を支える水の確保を後回しにしてまで町に戻り、彼女を冷やかな目で見ていたであろう人々を含む住民に伝えたメッセージは、『永遠の命に至る水』（ヨハネ4・15）を湧き出させる源泉となる『生ける水』（4・10、11、聖書共同訳）

☆ 目 次 ☆

| | |
|--|----|
| 巻頭言 新風 (小熊晴代) | 1 |
| オンラインセミナー参加者からの証し | 5 |
| 5月に帰天されたお二方への追悼： 「明鏡止水」 故坂倉恵二師に贈ることば (赤波江謙一神父) | 7 |
| 小平正寿神父様を偲んで (金子知香子) | 8 |
| 教皇フランシスコの希望に関するカテケージス： ① 信仰と希望の父祖アブラハム | 9 |
| ② イエスの誕生こそ希望の源泉 | 11 |

発行

聖霊による刷新

全国委員会

編集委員

中村友太郎
益田 薫

購読料(送料込み・年1600円)

購読申込み・振込み先

〒141-0021
東京都品川区上大崎2丁目
10-34-2-312

聖霊による刷新全国委員会
Email: ikerumizu.livingwater@gmail.com

郵便振替 00190-1-18878
口座名 聖霊による刷新全国委員会

の与え主、メシアに私は会いま
した。あなたがたも、見に来て
ください」でした。彼女の招き
で多くの人々がイエスのもとに
やって来て、自分たちのところ
に滞在して話を聞かせてほしい
と願い、二日間でさらに多くの
人が直接「イエスの言葉を聞いて
信じた」(4・41)のです。

この霊の渇きに気づかない人、
また、気づいたものの、時には
大変な代価を払って間違ったと
ころに行き、不純な水を飲んで
霊の健康を害してしまう人は、
まだ大勢います。イエスは十字
架の上で「渇く」と言われまし
た。全てを成し遂げられ、その
死と復活を通して自らが永遠の
命に至る水の源泉であることを
示されました(ヨハネ19・28、
37)。十年後の二〇三三年は、
人類の歴史と私たち一人一人の
人生を変えた、このキリストの
死と復活の出来事から二千年を
祝う大聖年に当たります。教皇
フランシスコとカリス(CHARIS)
は、今年の復活の主日
から「アジェンダ二〇三三」と

称する十年の準備期間を呼びか
けています(「AGENDA 20
33」でネット検索できます)。
イエスの招きに応じて生ける水
である聖霊に生かされている私
たちは、何ができるでしょうか。
七週連続のセミナーを再び

この3年間、社会でも教会で
も様々な制限が設けられた中で、
全国コムニオ奉仕会は聖霊の導
きに信頼しつつできることを実
践してきました。すでに本誌で
お伝えしたように、コアグルー
プはほぼ毎週ズームミーティン
グで集まり、賛美と感謝と識別
を重ねた上で、オンラインの賛
美の集いを開催してきました。
そのほとんどは一日限り2時間
程度の単発イベントでした。昨
年の今頃は3年ぶりに対面式で
全国大会の開催を計画しまし
たが、コロナ感染の第七波を考慮
し断念、代替として三日連続で
オンライン開催となりました。
前回の春季号でアジア・オセ
アニア大陸コムニオ奉仕会会議
について報告した際、私はこう
結びました。「日本の全国コム

ニオ奉仕会でも、長年親しんで
きた『聖霊による生活刷新セミ
ナー』を『セミナー「聖霊に生
きる」』という新たな名称と内
容でオンライン開催するため準
備中です。コロナという冬から
聖霊に生きる春に、共に一歩ず
つ踏み出しましょう。」と。神
に感謝、このセミナー開催は実
現しました。

**The Life in the Spirit Semi-
nar (LSS)**

またその話か、と読み飛ばさ
ないでくださいね。原点・源泉
を思い起こすことは大切だと私
は思っています。

第二バチカン公会議(一九六
一〜六五)から2年後の一九六
七年2月17日、米国東部ペンシ
ルバニア州に位置する『箱舟と
鳩(The Ark and the Dove)』と
いう名の黙想の家で、大学生と
教職員の小さなグループが、最
初の聖霊降臨と同じ体験を通し
て神の愛を深く知りました。こ
の聖霊の洪水のような出来事(『
創世記』7・11は、「ノアの
生涯の第六百年、第二の月の十

七日、この日、大いなる深淵の
源がごとく裂け、天の窓が
開かれた」と記しています)は、
参加者たちが所属するカトリッ
ク大学の名前から「デュケイン
・ウィークエンド」と呼ばれま
す。インターネットのない時代
でしたが、聖霊のネットワーク
はすでにクルシリオ(一九四〇
年代にスペインで始まり、米
国では一九五七年に伝わった信
徒使徒運動)を通してつながっ
ていました。参加者の一人はす
ぐに電話で北西部インディアナ
州のカトリック校、ノートルダ
ム大学の信者グループに自分の
体験を伝え、聞いた学生たちは
同じように祈って同じ体験をし、
隣州の公立校、ミシガン州立大
学(MSU)やミシガン大学
(UM)のカトリック信者たちに
伝え、彼らも同じ体験をし、こ
の新しい体験は洪水のように広
がって行きました。

当時の学生リーダーで現在も
信徒リーダー、著者、学者とし
て活躍するステイブ・クラ
クさんによると、デュケイン・

オンラインセミナー「聖霊に生きる」

The Life in the Spirit Seminar Online
2023年 春

渴いている者は
来るがよい。
命の水が欲しい者は、
値なしに飲むがよい。
(ヨハネの黙示録22・17)

入室から
退室まで
ミュート
(マイクオフ)で
ご参加ください。

カトリック聖霊による刷新全国コムニオ奉仕会 主催

オンライン Online

世界のどこからでも参加できます。

セミナー Seminar

ラテン語のseminarium(種を蒔いて育てる苗床)に
由来する学び舎です。

「聖霊に in the Spirit

神の霊が私たちの内に湧き出て満ちあふれ、
私たちのすべてを覆い、

生きる」 The Life

私たちの生命・人生・生活が成長するために。

聖霊によって歩む 各週のテーマ

- 第1週 神の愛 God's Love ジム・マーフィー*
- 第2週 救いのみわざ Salvation ミシェル・モラン*
- 第3週 新しい命 The New Life 赤波江謙一神父
- 第4週 聖霊による洗礼を受けるために(回心)
Receiving God's Gift
フィラデルフィ・バヴオル神父
- 第5週 聖霊による洗礼
Praying for the Baptism in the Spirit 秋元伸介
- 第6週 聖霊のうちの成長 Growth 小熊晴代
- 第7週 キリストへの変容
Transformation in Christ 畠基幸神父

テキストはこちらから → <https://cscs.ccriapan.org>

*英語音声と日本語字幕

「カトリック聖霊による刷新サイト」で検索

ウィークエンドの7ヶ月後には、噂を聞きつけて祈りの集いに初めてやって来た人々がこの聖霊の新たな注ぎ、聖霊による洗礼をよりよく理解し体験できるようになり、質疑応答と説明の時間を集いの前後に別室で設けるようになりました。ここから発展して、4年後の一九七一年にテキストを用いた7週間のセミナー(The Life in the Spirit Seminar、通称LSS)が開始されたのです(Pentecost Today 誌、一〇一七年冬号より)。このセミナーも祈りの集いと共に瞬く間に世界中に広がり、翌一九七二年には日本にも祈りの集いとほぼ同時に到来し、「聖霊による生活刷新セミナー」(略して「聖霊による生活セミナー」)、「聖霊生活セミナー」とも)として紹介されました。『新生の門出』というタイトルで日本語に訳されたテキストを用いたこのセミナーは、以後50年にわたり全国各地の教会や祈りの集いで開催されました。(クラークさんが一九七二年に初版を書き下ろし、一九

九二年に新版が出版された著書、*Building Christian Communities: Strategy for Renewing the Church* は、全国コムニオ奉仕会コアグループの高浜武則さんが日本語訳を担当し、『教会「再生」の社会学―刷新のためのヒント』(二〇一五年、教友社刊)として出版されており、カトリック聖霊による刷新は「カリスマ的刷新」「クルシリオは「クルシリ」』として紹介されています。)

オンライン

コロナの規制緩和が進み、この感染症は今年の五月に5類感染症に移行され、日本の社会は活気を取り戻しつつあるように見えます。主要駅を通過すると、円安も手伝ってなのでしょう、海外からの観光客もずいぶん増えました。小教区教会では教区の方針に従ってまだ換気に気を配り、頻繁にアルコール消毒をし、マスクの着用を求められますが、検温はなくなり、座席間の距離はコロナ以前に戻り、他教会へのミサや活動参加も容認

されるようになりました。一方、このような状況下でも、かつてのように対面式の祈りの集いを定期的に開催することはどの地域でも困難に思われました。一番の問題は、人材不足です。誰が賛美を担当し、誰が教えを担当するのか。

その解決方法の一つとして、オンライン開催が示されました。YouTubeに賛美や教えの動画が投稿されれば、北海道から沖縄まで、世界のどこにいてもそれらを使うことができます。参考にしたのは、二〇二〇年五月末に『箱舟と鳩』から七日間連続で投稿されたLSSの動画です。どの動画も35分から40分、とてもコンパクトにできています。テーマはLSSが始まった時と全く同じ、私たちの日本語版も同じです(本頁上段に掲載したパワーポイント画像を参照)。毎回、同じ流れで行います。最初に5分、デュケイン・ウィークエンドが起り、カトリック聖霊による刷新(カトリック・カリスマ刷新、〇〇

の発祥の地となった黙想の家、『箱舟と鳩』が紹介されます。次に、賛美リーダーが登場し、5分間、賛美の歌を献げます。それから、別の人物が登場し、5分でテーマに沿った自分の体験を証しします。最後に、別の講師が約20分の講話を担当し、終了します。証しや講話の担当者は、長年国際的にICCR

の紹介が5分、賛美が15分、講話が20分、初めて聖霊による洗礼を体験することを希望する参加者のみで構成される小グループの分かち合いが20分、計1時間。日時は4月29日から聖霊降臨の主日前夜の5月27日を経て6月10日まで、毎土曜日、午後8時から9時までとする。

「聖霊に生きる」

名称は、従来の直訳である「聖霊による生活セミナー」でも良かったのですが、「オンライン」という特徴も入れると長くなるので、もう少し凝縮された表現にならないかと私が提案しました（翻訳家の職業病です）。ご存知のように英語の Holy Spirit（ライフ）には、人生、生活、生命、生き方など、多面的な意味があります。わずか2文字の前置詞、

「聖霊に生きる」として、愛に生きる」という表現を借りて、「聖霊に生きる」としました。賛美はいつものように秋元伸介・恭子夫妻にリードしていた

で奉仕して来たリーダーが多く、デューケイン・ウィークエンドの生き証人であるパティ・マンズ・マイルドさんやデイヴィッド・マンガンさん、来日して全国大会の講師を務めてくださった韓国コットンネのブラザー・シヤンやインドのシリル・ジョンさん、そして故レオン・ヨセフ・スーネンス枢機卿の個人秘書を務めていたベルギーのウィルフリード・ブリーベン神父（この講話担当後、翌二〇二一年三月に帰天）が含まれています。コアグループでは、この40分の『箱舟と鳩』版を参考に、次のような進行を考えました。最初に聖霊による刷新とこのセミ

ナーの紹介が5分、賛美が15分、講話が20分、初めて聖霊による洗礼を体験することを希望する参加者のみで構成される小グループの分かち合いが20分、計1時間。日時は4月29日から聖霊降臨の主日前夜の5月27日を経て6月10日まで、毎土曜日、午後8時から9時までとする。

「聖霊に生きる」
名称は、従来の直訳である「聖霊による生活セミナー」でも良かったのですが、「オンライン」という特徴も入れると長くなるので、もう少し凝縮された表現にならないかと私が提案しました（翻訳家の職業病です）。ご存知のように英語の Holy Spirit（ライフ）には、人生、生活、生命、生き方など、多面的な意味があります。わずか2文字の前置詞、

「聖霊に生きる」として、愛に生きる」という表現を借りて、「聖霊に生きる」としました。賛美はいつものように秋元伸介・恭子夫妻にリードしていた

聖霊の新風と舞う

講話までは誰でも参加できるようにしました。この時間帯の参加者数は、最高が第1週の61人、最低が第6週の32人、平均45人でした。この中から後半の分かち合いグループに参加したのは12人、3つのブレイクアウ

トルームに分かれ、各グループにコアグループから1、2名の進行役が加わりました。聖霊は自由に吹いて神の御業を行われる方です。人間の操作ミスや不完全な対処に関わらず、聖霊による洗礼を望む人の願いは聞き入れられ、聖霊の賜物である異言やいやしが与えられました（後述の参加者の証しをご覧ください）。

オンライン「聖霊に生きるセミナー」に参加して

証し(その一) 坂本きよみ

運動機能の神経全てに不調が出て、痛み・体の揺れ・足の指の

不随意運動があります。

受洗は二〇二〇年十一月二〇

からです。私は薬の離脱症候群で七年前から神経の伝達が狂い、内臓や

ただでなく、全ての霊魂を救え

日ですが、子供の頃ミッションスクールに通っていました。子供の頃、病人が病気を治すことが出来ると聞いていました。受洗後、ヨキエル神父様から煉獄の霊魂

るとお聞きし、病気を治す身では、助けて頂くことが出来ませんでした。その時このセミナーがあることを知り、参加致しました。異言の賜物は参加以前に頂

FRESH WIND By Hillsong United
(重複部分は省略)

新風 ヒルソング・ユナイテッド
(小熊晴代 私訳)

Spirit sound
Rushing wind
Fire of God fall within
Holy Ghost
Breathe on us we pray

霊の音がする
激しい風が吹く
神の炎が降るとどまる
聖霊よ 私たちに息吹を
吹きいれてください

As we repent
Turn from sin
Revival embers smouldering
Breath of God
Fan us into flame

私たちは悔い改め
罪に背を向けます
私たちの内にくすぶるリバイバルの
燃えさしを 神の息吹きよ
燃え立たせてください

For hearts that burn
With holy fear
Purified in faith and deed
Refiner's fire
Strengthen what remains

聖なる畏れで
燃える心
信仰も行いも清められ
精錬する者の火よ
純化されたものを強めてください

So we the church
Who bear Your light
Lamp aflame
City bright
King and kingdom come
Is what we pray

そうすれば私たち教会は
あなたの光を放つ
燃えるともし火
光あふれる都
王と御國が来ますようにと
私たちは祈る

We need a fresh wind
The fragrance of heaven
Pour Your Spirit out
A holy anointing
The power of Your presence
Pour Your Spirit out

私たちに必要なのは新風
天の香り
あなたの霊を注ぎ出してください
聖なる油注ぎを
あなたの臨在の力を
あなたの霊を注ぎ出してください

Let all the redeemed
Prophesy and sing
We can hear the wind
Blowing blowing blowing
Move upon our praise
Sons and daughters sing

贖われた者は皆
歌い、預言せよ
私たちには聞こえる
聖霊の風が吹いている
私たちの賛美を引き上げてください
御父の子らは歌います

いていました。

聖霊による洗礼の時は、賛美の時から何か奥底から湧き立つ明るい気持ちに満たされ、いつもと違う異言が口をついて出ました。分かち合いの時、足の痛みが和らいでいきました。次の日には足のつま先を動かすことが出来、聖霊降臨のミサの間、いつも座っているのに、立ったり座ったりできたのです。

六月三日、初土曜の信心で、修道院のお聖堂で皆様とロザリオを祈り、ミサに与れました。六月六日のチマツティ神父様の月命日のミサに未入信の友達が行きたいと言ってくれたので、電車とバスで二時間をかけて出かけ、友人は祝福を受け喜んでくれました。いつもは代母の車で送っていただいている私が一人で電車で行けたのは、まさに不可能を可能にして頂いた思いでした。痛みの日々の中、こんなに活動的に動けたのは初めてのことです。

学生時代の幼児洗礼で信仰熱い友人が教会から遠ざかってい

ました。ずっと祈っていたその友人に初土曜の信心の動画、マリノ・レストレボ氏の証言の本と石川神父様の黙想会のDVDを送ることができました。ずっと教会へ戻って欲しいと祈っていました。勇気がなく行動に起こせなかったことです。

ところが、セミナーの最終日、私の体は今までが一番痛みが酷くなりました。私に迷いが出た所でセミナーを終えました。分かち合いのリーダーだった秋元さんに相談しました。そして、自分の自由意志で是非かを決め、祈り続ける大切さを教えて頂きました。

25日に、教会の受洗者・転入者の歓迎会がありました。私は受洗者に該当します。その歓迎会で自分が受洗した時、痛みと眩明で開かなかった目が癒され見えるようになったお恵みを見ただいた証しをさせていただきました。

聖霊による洗礼を受けてから自分に積極性が出てきた事を感じています。そして今自分は、

やはり病気を御捧げし、執り成しの祈りをするように導かれていると感じています。聖霊の促しに恐れずに従っていきますように！人と比較することなく、自分の道をイエズス様と共に歩いていきますように！
目覚めた時から神様の愛の深さを感じ、お祈りが出来る日々感謝しています。

：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：

証し(その二) 榎原和子

私は現在七十一歳、幼少期より体調を崩し易く、中学生の時、大病院で、難病、突発性脊柱側湾症と診断されました。症状は、疼痛・痙攣するような筋緊張・内臓障害です。原因不明・手術以外治療法はなく、その手術も、後遺症が厳しく、私には無理との判断でした。以後、ペインクリニックのある大学での

対症療法で、疼痛・筋緊張による痙攣・排便排尿障害への投薬、近年は鍼治療で対応、ヘルパー

さんの支えでの日常生活です。今回参加したセミナーの間、全身の症状が消えた時を与えられました。初めての感覚で、自分が信じられませんでした。筋弛緩が起きて、新しい血流が生まれ、脳と体が蘇る感覚を受けました。何かが結晶し、調和しました。コップを持つことでも脊髄神経に響く痛み、それによる発熱、足の痛み、三叉神経痛、排便排尿障害がありました。今、取れています。

今は時々、筋緊張が起きそうになりますが、それをコントロールする方法にも導かれました。七十一歳ですが、体のステップが次の段階に、ステップアップされました。これは想像を超えるものでした。

感謝と賛美の中で、私に、脳と体の蘇りにより、夢と希望が生まれています。固い心が解きほぐされ、次第に柔らかくなつて、満たされ、幸福感、喜びを感じています。

故フランシスコ・ザビエル坂倉恵一師に贈ることば

「明鏡止水」

聖パウロ修道院 赤波江謙一神父

「皆さんは聖書を製作販売して
いますけど、聖書を読んで、こ
れは素晴らしいと感動して、ぜ
ひ多くの人に読んでほしいと思
って売っていますか？ そうで
はないでしょう。何冊売れるか
ということが最も重要な関心事
でしょう？」

もう十年以上も前のことにな
りますが、修道院での月の静修
の講師に呼んだ、東京教区の坂
倉恵二神父様が話した、福音宣
教についての講話の中の一部で
す。その講話の前後の内容につ
いては全く記憶がないのですが、
不思議なことに冒頭の言葉だけ
は今でもはつきりと覚えていま
す。坂倉神父様とはそんなに深
いお付き合いをしていたわけ
ではないのですが、彼がいわゆる
毒舌家ということは知っていま
したので、それを聞いても、な
んて失礼な人だとも思わなかつ
たし、むしろ内心、ニタツと笑

いながら、来たな、と思いが
ら聞いていました。聖堂内での
講話中ですから、あえて反対尋
問をする者もいなかったのです
が、もしかしたら内心、なんだ
と！ と怒っていた者がいたか
も知れません。正直に言います
と、彼の発言は当たらずとも遠
からず、でした。



坂倉神父様と最初にお会いし
たのは二十年くらい前になりま
す。当時修道会から出向してカ
トリック新聞社に勤めていたと
き、専務だった司祭が内部異動
で他の部署に行き、その後任の

専務かつ営業部長として来られ
たときです。彼の人と成りも、
前評判も全く知りませんでした
ので、私の上司である坂倉神父
様の動向を興味津々で眺めてい
ました。私は編集長でしたが、
カトリック新聞の編集に関して
は、それまでのやり方に彼は注
文とか異論を差し挟むことはあ
りませんでした。でも営業のあ
りかたについては、その一つひ
とつの発言が、エツと思うよう
な、斬新かつ大胆で、他に追隨
反論、異論を許さないような、
自信にあふれるものでした。今
思い出すと、いろいろなことで
不協和音が聞かれていた社内の
空気が一新されたのではないで
しょうか。

新聞社を退職した後、今度は
聖霊刷新との関わりで坂倉神父
様とお会いするようになったの
は不思議な巡り合わせのようだ
った気がします。この聖霊刷新

の中で坂倉神父様の講話やコメ
ントなどに接するときに感じた
のも、やはり斬新かつ大胆、そ
して鋭い観察眼から生まれた内
容でした。それが時には毒舌と
聞こえた向きもあって、彼に反
発を表明した人たちもあつたの
ではないでしょうか。しかし、
そうした人たちの批判など全く
意に介さない姿勢は、長年にわ
たる苦しいはずの闘病生活の中
でも崩されることはなかったの
ではないでしょうかと思います。
何にも誰にも屈せず、決して妥
協を許さないで、真理を真っ直
ぐに見つめてイエスに従い、聖
霊に対する篤い信仰を持ったそ
の生き方を一言で言い表わすな
らば、それはまさに「明鏡止水
」です。 合掌

《注 「明鏡（めいいきょう）」
は一点の曇りもないこと、「止
水（しすい）」は止まって静か
にたたえている水のこと。つま
り、邪念がなく、澄み切って落
ち着いた心境のことです》

トマス小平正寿神父様（フランシスコ会）を偲んで

いやしのためのミサ世話役 金子知香子

いやしのためのミサで長年主
司式としてミサを捧げて下さっ
ていた小平神父様が五月十九日
に帰天なさいました。哀悼の意
を表し、故人を偲んで、略歴等
とあわせて記させて頂きます。

年七九歳。

【著書・訳書等】

著書…「あなたに神のやさしさを」、
「聖書一〇一の謎」、「イタ
リア・アッシジからの伝言」。

訳書…「エウカリスティア、過越
の秘跡」、「司祭の霊性」、
「父である神」、

【略歴】

一九四四年三月二四日、東京都
世田谷区で出生。暁星学園在学
中に数々の優秀賞受賞。

一九六六年早稲田大学卒業後、
フランシスコ会に入会。

一九七四年十二月、司祭叙階。

一九七八年ローマ教皇庁立アン

トニオ大学大学院卒業。

東京・中目黒教会、三軒茶屋教
会、六本木修道院、田園調布教
会等に赴任。

一九八三年～二〇〇四年…在世

フランシスコ会南関東地区総補

佐司祭。

二〇二三年五月十九日、療養中
のAOI国際病院にて帰天、享



ヨハネ・パウロ2世と謁見する小平神父（1999年）

「聖フランシスコの第二伝記」、
「聖フランシスコに語りかけた

十字架」、

「聖フランシスコとその時代」。

訳監修…「聖霊」、「イエス・

キリストを思い起こしてください

さいー現代の信仰問題への応

答として」

【故人を偲んで】

マッコイ神父様（イエズス会）

が引退なさる際に、いやしのた
めのミサ（聖心女子大学聖堂に
て八月と九月を除いて毎月第二

日曜午後二時）を小平神父様

が引き継いでくださいました。

二〇〇三年十月から二〇二〇年

二月の期間の公開型ミサではミ

サ後、パウロ・ヤノチンスキー

神父様（ドミニコ会）や川村町

司神父様（東京教区）等と共に

ご病氣の方々の為に個人別に

いやしを祈願して、温かいお心で

病人に寄り添って下さいました。

お歌がお好きだった小平神父様

がお祈りの時に聖霊に導かれる

ままに朗々たる御声で聖歌を歌
っておられました。温厚なお人

柄の小平神父様が個人別に執り

成しの祈りをなさり、ご病人や

付き添いのご家族や友人方が、

主イエス様によるいやしへの希

望と期待をもって明るいお気持ち

でお帰りになっていく様子が

思いだされます。その上、次の

いやしのためのミサまでの間も

修道院で病人のいやしのために

執り成しのお祈りを続けて下さ

り、ありがたく存じておりまし

た。二〇二〇年二月からコロナ

の影響で非公開型ミサになりま

したが、ご病氣をかかえておら

れながら本年二月十五日まで折

々担当月に非公開型ミサを修道

院でお捧げ下さいました。

小平神父様の御帰天に伴い、

いやしのためのミサは、パウロ

・ヤノチンスキー神父様が主司

式になって御意思を継いで下さ

っています。

小平神父様はきっと天国で天

使と一緒に三位一体の神様を賛

美しながら、マッコイ神父様、

シユナイダー神父様、シスター

・リタ・マツキノン様 (C.N.D.)、
帰天なさった奉仕者の小林康司
さん、望月三千子さん等と共に、
主の御座の前で、いやしのため
のミサの意向に入っているご病
人の方々のために心身のいやし
のお恵みを執り成し、レジオマ

リエヤ司牧した教会や黙想会で
指導した方々の為に、引き続き
お祈りして下さっていると思ひ
ます。

【小平神父様の座右の銘】

「この上なく高く、栄光に満ち

ておられる神様、私の心の闇を
照らし、正しい信仰、確かな希
望、完全な愛、感じる心と深く
知る恵みをお与え下さい。あな
たの尊いまことの掟を守る事が
できますように。」

(アッシジの聖フランシスコの

言葉より)

ご参考までのお知らせ：

【いやしのためのミサの URL】

<http://home.a04itscom.net/>

ictus/hm.html

：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：

教皇フランシスコによる希望についてのカタケージス (その一)

信仰と希望における父祖アブラハム

『カリスインディア』誌・二〇一三年六月号掲載

あらゆる希望に反するアブラ
ハムの希望―これが今週の水曜

人間的な希望はなかったのに、
彼は希望したのです。」

日にパウロ六世ホールで行われ

この約束に信頼しつつ、アブ

た教皇様のカテケージスのテー

ラハムは旅を始め、郷里を離れ

マでした。教皇様は、聖パウロ

この「あり得ぬ」息子に望みを

がローマの信徒への手紙第4章

かけ、あたかもサラの胎が死ん

で、太祖の神信仰について私たち

だも同然だったのに、神が息子

に語っていると説明されました。

をお与えくださったことを希望し

神はアブラハムに向かつて、彼

たのです。アブラハムは信じま

がほぼ百歳になっており、妻の

した。そしてこの信仰が、見か

サラが不妊であったにもかかわらず、

け上不合理な希望に向かつて彼

らず、子孫を約束されました。

の心を開きました。これは、人

「これは強力なコンセプトです

間の理性・知恵・この世の賢慮

」とフランシスコ教皇は言われ

を超え、通常常識と考えられる

ました。「いかなる希望もない

ことを超えて、不可能なことを

ときにでも、わたしは希望する。

信ずることへと向かう能力です。

希望は新しい地平を開き、私た

態のままに閉ざされていました。

ち、想像することも出来ない

ことを夢見ることが可能にしま

す。「希望という徳は、人生に

「そしてアブラハムは」と教皇

おいて前進する偉大な力強さを

私たちに与える」のです。

けれどもこれは難しい旅路で

は話を続けられました。「彼は

す。そしてアブラハムにとつて

さえも、失望の危機という瞬間

が到来します。彼は信頼してい

が、彼は神に悲嘆の声を挙げま

ました。彼は家も国も友人も、

すべてを捨てて、神が彼に示さ

れた土地に到着し、時も経過し

ました。息子はやって来ませ

んでしたし、サラの胎は不妊状

態のままに閉ざされていました。

「そしてアブラハムは」と教皇

は話を続けられました。「彼は

が、彼は神に悲嘆の声を挙げま

した。このことも、私たちは父

祖アブラハムから学ぶことが出

来るのです。神に訴えることは

一つの祈り方です。告白のとき

に、時々、『私は主に不平を言

いました』と言う言葉を聞きま

すが、私は言います。『いいえ、

構わずに、不平を言いなさい。

相手は私たちのお父さんなので

すから!』そしてこの主に訴え

ることは一つの祈り方ですし、

良いことです。アブラハムは主

に悲嘆の声を上げて、言います。

「主なる神よ、私には息子が相

変わらずいませんし、わが家の跡

継ぎはダマスコのエリエゼルで

す」(エリエゼルは家事一切を取り仕切る人でした)。アブラハムは先を続けて言いました。「ご覧ください。あなたは私に子孫をお与えくださいませんか。ですから、家の僕のひとりが跡を継ぐことになっていきます。」すると、主はお答えになった。

「その者があなたの跡を継ぐのではなく、あなたから生まれる者が跡を継ぐ。」そして主は彼を外に連れ出して言われた。「天を仰いで星を数えることができるなら、数えてみるがよい。」そして言われた。「あなたの子孫はこのようになる。」そこで改めてアブラハムは主を信じたのです。(創世記15・2-6参照)

この場面は夜中に起こっており、外は真っ暗ですが、アブラハムの心の中にも、失望と落胆、不可能なことを望み続ける難しさの暗闇があります。この時点までに太祖はかなりの年輩者であり、もはや息子をもうける時間はなく、跡を継ぐものは家の僕になるように思われます。ア

ブラハムは主に語りかけますが、現存しておられ自分と話しておられるはずの神が、いまはまるでそのみ言葉にそぐわない疎遠なかたに思われ、アブラハムは孤独感をおぼえ、老いて、疲れきっています。どのようにして信頼し続けることが出来ましようか。「けれども」とフランシスコは話し続けました。「彼のこの悲嘆は、ひとつの信仰のかたちであり、祈りなのです。一切のことにかかわらず、アブラハムは神を信じ、何かがまだ起こると希望し続けます。さもなければ、なぜ主に呼びかけ、訴え、約束を思い起こさせるのでしょうか。信仰とはたんに、応答なしにすべてを受け入れる沈黙ではなく、希望とは、疑いや困惑から庇護する確実性ではありません。しばしば希望は暗黒ですが、やがて希望は前方へと押し進めます。信仰は、神との格闘でもあり、偽善的な見せかけなしに、神に私たちの苦しさを示すことでもあります。『私は神に腹を立て、これを云々と申し

立てました』が、相手は私たちの父親であり、あなたを理解して、安心して行きなさいと言ってください。私たちはこのような勇気を持たねばなりません。そしてこれこそが希望です。そして希望は、現実があるがままに認め、その矛盾点を受容することを恐れないことでもあります。」

アブラハムは信仰をもつて、希望し続けるのを助けてくださるように神に求めています。奇妙なことに、彼は息子を願い求めてはいません。彼は「希望し続けられるよう助けてください」と言い、希望を祈り求めています。そして主は、ありそうもない約束を主張し続けて、跡を継ぐのは家の僕ではなく、アブラハムから生まれる実の子であるとお応えになります。神の側には、いかなる変更もありません。主は既に言われたことを繰り返して続け、アブラハムに対して何らの再保証もなさいません。その唯一の保証は、主のことはに信頼して希望し続けることです

」。「神がアブラハムに与えるしるしは、信じて希望し続けるようにとの要求です。『天を仰いで、星を数えてみるがよい。あなたの子孫はこのようになる：神はアブラハムを、彼の限られた視点の現実である天幕のそとに連れ出し、彼に無数の星を示します。信じるために、私たちは信仰の目で見なければなりません。それらはただの星にすぎず、誰でも見ることができませんが、アブラハムにとっては、それらは神の誠実さのしるしにならなければならないのです。』

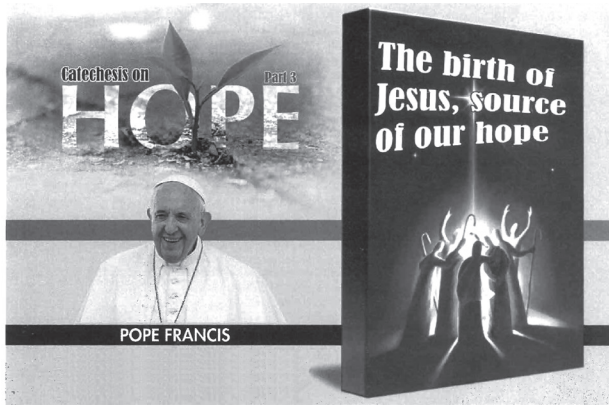
「これが信仰であり、私たちの誰もがなさねばならない希望の旅なのです」とフランシスコは結語づけました。「もしも私たちにとつても、留まっていける唯一のチャンスが星を仰ぎ見ることであるとすれば、これは神を信頼するべきときなのであります。これ以上に素晴らしいものはありません。希望は決して失望させる(裏切る)ことはありません。」

教皇フランシスコによる希望についての catecheisis (その二)

「イエスの誕生は、私たちの希望の源泉」

『カリスインディア』誌・二〇一三年五月号掲載

私たちは最近、希望をテーマとする catecheisis の旅路を始めましたが、これはとても適切なことです。預言者イザヤが、私たちをこの点へと導いてくれました。私はここで、言わば神の子の受肉とともに「希望がこの世に到来した」瞬間について、



いつそう明確に省察したいと思えます。いくつかの章句においてメシアの誕生を予言したのも、やはりイザヤでした。「見よ、おとめが身ごもって、男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ」(7・14)、そしてまた、「エツサイの株からひとつの芽が萌えいで、その根からひとつの若枝が育つ」(11・1)と。これらの章句において、クリスマスの意味が輝き出てきます。神は人となることによってその約束を成就されます。その民を見捨てることなく、その神性を自ら脱ぎ捨てるところまで。このようにして神はその誠実さを示され、新しい御国を開始され、それによって人類に新しい希望をお与えになる。そしてこの希望とは何か。永遠のいのちです。私たちが希望について語るとき、それは人間の力で理解され

ることなく、また見ることで見えないものを指し示します。現に、私たちが希望するものとは、私たちの力や知覚を超えたものを意味します。ところで、贖罪を開始するキリストの誕生は、私たちに、異なる希望、信頼で、目に見え理解できる希望について語りますが、それは神の内に基づいているからです。彼はこの世にやって来られ、私たちに彼と共に歩む力強さを与えます。つまり、神はイエスにおいて私たちが共に生まれ、彼とともに命の充滿に向けて歩むことは、私たちに、新たな仕方です。至難ながら、現実のうちに留まる力を与えます。こうしてキリスト者にとつては、希望することとは、キリストと共に、私たちが待つておられる御父に向かう旅の途上にあることの確かさを意味します。希望は決して静止

したものではなく、希望は常に旅行し続け、私たちを旅立たせません。ベツレヘムの子が私たちに与えるこの希望は、目的地を、人類の救いという確かな、前進する目標を提供し、あわれみ深い神に信頼する人々に幸運をもたらします。聖パウロはこのすべてを、「私たちが、このような希望によって救われているのです」(ローマ8・24)という表現をもって要約しています。言い換えると、希望をもってこの世を歩むことで、私たちは救われているのです。ここで私たちは、自分自身に、私たち各々にこのように問うことができるのです。私は希望をもって歩んでいるか、それとも私の内的な生活は静止し、閉ざされているのかと。私の心は閉ざされた引き出しであるか、それとも、私が、独りでなく、イエスと共に歩むことを可能にする、希望に開かれた引き出しであるのかと。クリスマスチャンの家庭では、待降節の期間に、ご降誕の馬小屋の場面が整えられますが、これ

はアシジの聖フランシスコに遡る伝統に従うものです。このような簡素な仕方では、降誕の場面は希望を伝えていません。登場人物の各々が、この希望の趣き・雰囲気のうち浸されているのです。

まず第一に、私たちはイエスが生まれた場所、ベツレヘムに注目します。ユダヤのこの小さな村には、数千年前に、神によってイスラエルの王となるように選ばれた羊飼いの少年、ダビデが生まれました。ベツレヘムは大都会ではありませんが、まさにそれゆえにこそ、小さな、けんそんな者を通して働くことを愛される神の摂理によって選ばれたのです。その出生地に、大いに期待されていた「ダビデの子」イエスが生まれました。そして彼の中で神の希望と人間の希望が出会うのです。

【希望の母、マリア】

次に、希望の母であるマリアに目を向けましょう。その「はい」という返事によって、彼女は私たちの世界の扉を神に向け

て開きました。彼女のおとめ心は希望に満ちており、信仰によって完全に活気づけられていたので、神は彼女を選び、彼女はその言葉を信じました。九か月のあいだ新しい永遠の契約の櫃となった彼女は、岩屋の中で、御子を観想し、彼のうちに、御民と全人類を救いに来られる神の愛を認めるのです。

マリアの隣には、エッサイとダビデの末裔であるヨセフがいます。彼もまた、天使の言葉を信じました。そして飼葉桶のイエスを眺めながら、その乳のみ子が聖霊に由来し、神ご自身が彼に、その子を「イエス」と名付けるよう命じられたことを想いめぐらします。その名前は、すべての男女にとつての希望があります。女から生まれたその息子を通して、神は人類を死と罪から救われるからです。このような訳で、降誕の場面を観想することは大切なのです。降誕の場面には、羊飼いたちもいます。彼らは、「イスラエルの慰め」（ルカ2:25）と「エ

ルサレムの救い」（2:38）であるメシアを待ち望むけんそんな貧しい人々を代表しています。彼らはこの幼子の中に、神の救いが彼ら一人一人に遂に到来するという約束と希望の実現を目にしています。自己自身の確かさ、ことに物質的な確かさを信頼する人々は、神の救いを期待しません。このことをしっかりと

心に留めましょう。私たち自身の保証は私たちを救いません。私たちが救う唯一の確かさは、神のうちなる希望の確かさです。それが私たちを救えるのは、それだけが強力で、私たちに喜びと、善き行ないへの意志と、永遠の幸せを達成する意志とをもつて人生の旅路を歩むことを可能にしてくれるからです。小さな者たち、羊飼いたちはむしろ神に信頼し、希望を抱き、あの乳飲み子のうちに、天使たちによって知らされたしるし（ルカ2:12参照）を認めて喜ぶのです。そしてこの天使たちの合唱は、その乳飲み子が成し遂げる偉大

な計画を高みから告げ知らせるのです。「いと高きところには、栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ」（2:14）。

クリスチャンの希望は、愛と正義と平和の御国を創められた神への賛美と感謝のうちに表わされます。

【はい、イエスさま、あなたは私をお救いになられます】

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、ここ数日のうちに、ご降誕の場面を黙想しつつ、私たちは主の、ご降誕の準備をしています。私たち個人と共同体の歴史という耕地のうちに神が蒔かれる希望の種子であるイエスを喜んで歓迎するならば、それは、まことの祝賀となるでしょう。やって来られるイエスへのすべての「はい」という返事が希望のつぼみなのです。この希望の芽、この「はい」に信頼しましょう。

「はい、イエスさま、あなたは私をお救いになられます。私を救うことがお出来になります」と。